



カイロ日本人学校運動会

10月14日（金）に運動会が行われました。日本人学校でするので、日本の小学校の運動会で行われる競技（右の通り）を行います。日本の運動会との違いは、まず児童・生徒数が少ないことです。現在、**カイロ日本人学校は全校児童生徒が25名です。**25人で運動会を行っても寂しいので、**カイロ日本人会との共催**とし、さらに、**エジプトの小・中学校の交流校2校と大学4校を招待**して行います。この運動会に、在エジプト日本国大使も参加してくださいます。1年の中で、学校に日本人やエジプト人が一番集まります。

<主な競技種目>

- ・徒競走
- ・表現（ソーラン）
- ・綱引き
- ・応援合戦
- ・玉入れ
- ・借り物レース
- ・大縄
- ・未就学児レース
- ・親子レース
- ・リレー

日本人会との共催ですので、日本人会の種目もあります。玉入れや綱引き、リレーなどを行います。**チームは、日本を東西に分けて競います。**大勢の大人が本気で引き合う綱引きは、とても迫力があります。**リレーは地区対抗のリレーで、北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の6地区に分けて競います。**新潟県は、中部地区になります。地区の所属は、出身地だったり現在の赴任地だったり、その場所が好きだという理由でも構いません。私は、今年は北海道・東北地区に所属しました。それは、北海道に何度も行ったことがあり、北海道が好きだからです。リレーは、年齢や性別ごとに出場者が決まっています、人数が少ない地区は出場してくれる人を探すのが大変です。

日本とエジプトの子どもたちの違いを紹介します。エジプトの小学校・中学校に体育の授業はありますが、好きなスポーツをして体を動かすといったような授業のようです。**日本のように、団体行動や競技力の向上などには、あまり重きを置いていない**ようです。だから、徒競走でエジプト人と日本人が競走すると、同学年ならばだいたい日本の子どもが勝ちます。開会式では、約20分間立ったままでいろんな人の話を聞きますが、日本の子どもたちはほぼ動かずに立っていますが、エジプトの子どもたちは慣れていないせいか、ふらふら動いたり近くの人と話をしたりする子もいます。

競技の結果が出ると、その反応には日本人とエジプト人では、かなり異なります。想像できると思

いますが、**エジプト人は勝てばガッツポーズで飛び跳ねたり大きな声を出したりして、体全体で喜びを表現します。**日本の子どもは、とてもおとなしく「やったー」という程度です。負けた場合も同様で、エジプト人は本当に悔しがり、日本人はあっさりとしています。競技の結果を見るだけでも、両国の国民性の違いが分かります。また、**エジプトの子どもたちは、日本の子どもたちに積極的に話し掛け握手を求めます。**エジプトの小・中学生は、日常会話程度の英語は話せます。日本の子どもは、英語もままならず戸惑ってしまいます。これから**さらに国際化が進む世界で生きていく子どもたちに身に着けさせるべき力は何か、考えさせられます。**



エジプト人との記念写真に応じる香川大使